

ドラマとジェンダー

小川 ひかる

本稿では、ジェンダー問題を取り扱うドラマ作品の中でも消えた初恋という BL 作品を研究対象として、ドラマとジェンダーの関係性を明らかにする。

近年ジェンダー問題が題材とされているドラマが数多く存在する。その中でも消えた初恋は原作の漫画が 2021 年にドラマ化された作品である。そんな消えた初恋の漫画とドラマという 2 つの媒体で描かれた作品の比較を行ったところ、ドラマは原作の漫画でも重要視されている消しゴムを落とすシーンや、友達に同性愛者だとカミングアウトするシーンなどは漫画を忠実に再現されていることが分かった。一方で、漫画とドラマのそれぞれでしか描かれていないオリジナルのシーンが存在していた。

消えた初恋のドラマ制作に携わったプロデューサーの神田氏は、みんな違うが当たり前な優しい世界を表現することを大切にしたいとインタビューに答えていた。そのため、BL 作品で描かれることの多いキスシーンやセックスシーンは消えた初恋の漫画でも描かれていたが、ドラマでは描かれていなかった。その代わりにドラマのオリジナルストーリーとして描かれたのは、担任の先生がそれぞれの個性を尊重しているシーンである。このように漫画とは違い、登場人物たちがそれぞれの個性を尊重し合うシーンを中心に描かれていたことが分かった。

ドラマと漫画を比較したことで内容の本質的な部分は保ちながらも、原作の漫画をドラマとして実写化させ、さらに漫画では描かれていないオリジナルストーリーをドラマで表現することでジェンダー問題への理解や、視聴者がジェンダー問題に対して考えるきっかけづくりになっているのだと感じる。